

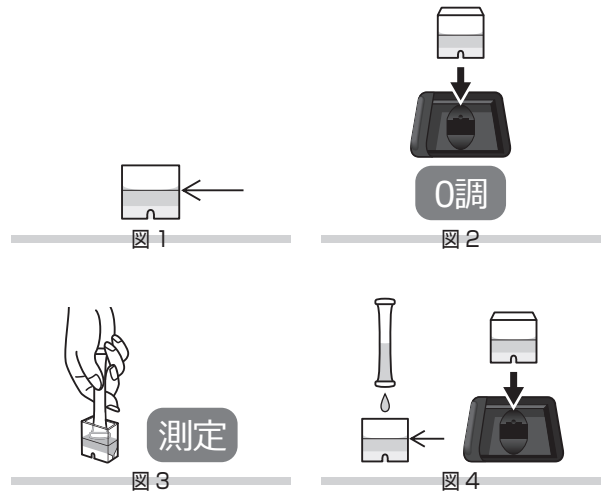
Phenol-2 フェノール（試薬型式が WAK-PNL-2 の場合）

発色：淡黄→桃→赤
測定原理：4-アミノアンチピリン法
測定範囲：0.20 ~ 5.00 mg/L (ppm)
試薬：WAK-PNL-2 チューブ
測定時間：チューブに吸い込み後 3分

セル：専用カップ
使用波長：525 nm, 670 nm

測定方法

1. 【Phenol-2】を押します。
2. 【決定】押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5. のチューブを軽く5 ~ 6回振り混ぜて、すぐに専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図4)
7. 経過3分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. この方法は、試薬型式 WAK-PNL-2専用です。試薬型式 WAK-PNL を使用する場合は、測定項目 Phenol を選択してください。
2. フェノール類は、JIS 法ではフェノール類と *p*-クレゾール類に区別されますが、この方法ではフェノール類のみが測定されます。*p*-クレゾール類は測定されませんのでご注意ください。
3. 発色時の最適 pH は約9 です。pH が4 ~ 10 の範囲をこえる検水は希水酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
4. 検水の温度は15 ~ 30℃で測定してください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は直接測定できません。(純水で2倍以上に希釈すると影響しません。)
酸化性物質や還元性物質が発色に影響する場合があります。
10%(w/w) 以下のエタノールは影響しません。

1000mg/L以下は影響しない	…B ³⁺ (ほう酸)、Ba ²⁺ 、Br ⁻ 、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₂ ⁻ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺ 、非イオン界面活性剤、陽イオン界面活性剤、エチレンジアミン四酢酸 (EDTA)、くえん酸、グルコース、チオ硫酸ナトリウム五水和物 (ハイポ)
500mg/L	// …Al ³⁺ 、アスコルビン酸、陰イオン界面活性剤
200mg/L	// …Ni ²⁺ 、過酸化水素
100mg/L	// …Co ²⁺
50mg/L	// …Fe ²⁺ 、Fe ³⁺
20mg/L	// …Cr ³⁺ 、Cu ²⁺ 、残留塩素
2mg/L	// …Mn ²⁺